

**GUNBOH****群****萌**

第201号 2020年1月31日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1

ルーシビル402

TEL 03 (6452) 8806

FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 寺前 敦司

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.com



～うれしい驚きに満ちた2020年となりますように～

全国化学労働組合総連合 会長 寺前 敦司

新年明けましておめでとうございます。日頃より化学総連の諸活動に対して力強いご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。まずもって、2020年が皆様にとって、安全で幸多き年となることを心よりお祈り申し上げます。

2019年は様々な驚きに満ちた年でありました。3月末に決定するはずだったイギリスのEU離脱は、離脱リスクなどが首をもたげ再三延長を重ねた挙句、12月の総選挙では与党離脱強硬派の圧勝に終わりました。英国に振り回された9か月でした。また3月21日に東京ドームで開催されたアスレチックス戦を最後に、メジャー19年を迎えたマリナーズのイチロー選手が引退しました。有終の美はチームの勝利で飾られましたが、一本打ってほしかったです。

春を迎え4月1日に発表された新元号「令和」は、「平成」までの247の元号すべてが中国の古典から引用されていた慣例から離れ、初めて典拠を日本の古典である万葉集とただけでなく、元号として初めて「令」が用いられました。5月は令和初の国賓としてトランプ大統領が来日し、さらに6月のG20大阪サミットにはメンバー国に加えて8つの招待国、9つの国際機関が参加しました。これらの間、公共交通機関等では異例の警備体制となり、大阪の企業では出勤や操業を見合わせるなど、思った以上に大変でした。

秋に入り9月20日から11月2日までラグビーW杯の試合が日本各地で実施され、日本ラグビー界悲願のベスト8入りや、チケット販売率99.3%となったこと、さらには各地での歓迎ぶりなどから、「史上最高の大会」と称されました。ブライトンの奇跡が再びでしたが、残念です。10月からは消費税が10%に上昇し、併せて軽減税率も導入され「イートイン脱税」なる言葉も生まれました。そんなセコイ脱税するわけないと思っていたら、先日下の子が、上の子へのお土産に買ったドーナツをお店で食べようとして、慌てました。

9月と10月に日本列島を襲った風水害は各地で大変深刻な被害をもたらし、千葉県を中心に発生した長期の停電、

多摩川や荒川の氾濫を伝える臨時テロップや携帯電話のアラーム音に、東日本大震災が重なりました。これらの災害を踏まえて10月22日に予定されていた天皇陛下の即位を披露するパレードは、11月10日に延期となりましたが、本番は天候に恵まれ12万人近くの人々が沿道を埋めました。

また少しさかのぼること10月9日には、旭化成名誉フェローの吉野彰氏を含む三氏に、リチウムイオン電池を開発した功績に対してノーベル化学賞受賞が発表され、アルフレッド・ノーベルの命日に当たる12月10日にストックホルムでメダルが授与されました。そして暮れも押し迫った12月29日とされる日産自動車前会長による海外逃亡劇に、驚愕した方は少なくなかったのではないかと思います。

ひと月が過ぎようとしている2020年も、新年早々から米国とイランの緊張の高まりに衝撃を受け、嫌な歴史が頭をよぎりましたが、早い段階で落ち着きを取り戻してくれました。1月11日の台湾総統選・議会選では、18年11月の統一地方選で苦杯を舐めた現職の蔡英文氏ならびに民主進歩党が圧勝しました。9月は混乱のくすぶる香港で、日本の国会に当たる立法会議員選挙が予定され、11月3日はトランプ氏が再選を目指す米大統領選の投票日です。EUと英国間での通商交渉は、ジョンソン首相によると12月末に終結するとされています。

昨年同様、今年も一筋縄ではいかない展開がきっと待ち構えています。そんな中でも、東京オリンピック・パラリンピックでは多くの人にとって忘れられない驚きが待っているに違いありません。訪日客の多さと混雑ぶりにも圧倒されるのですが、自国開催の利を生かした日本選手団の目を見張る活躍の連続に、うれしい歓声の鳴りやまない様子が今から期待されます。私も、当ててしまった8月7日の国立競技場での決勝で、なでしこジャパンが勝利することを、心から願っています。(もちろん有休です。)

～2020年度組織体制の紹介～

化学総連は、真にプロフェッショナルな産別組織を目指すべく、2017年度より組織体制を見直し、役員全員が一丸となって産業政策活動に取り組んでいます。政策委員会の下に編成された4つの専門委員会・研究会および地方連絡会議は、現在の化学産業を取り巻く様々な政策的課題の解決に向けて、時代の先を見据えた活動を行っています。また、時代の要請に応じた様々な勉強会、施設見学、意見交換会などを積極的に行うことで化学総連の全体的なレベルアップに努めています。今号では4つの専門委員会・研究会および地方連絡会議について、2020年度の組織体制と2019年度の活動内容を簡単にご紹介いたします。

環境安全委員会

環境安全委員会では、モノづくりの前提にある「ゼロ災害」を重要課題とした安全活動に取り組むとともに、化学物質管理や様々な環境保全活動について情報共有や提言活動に取り組めます。

- 第42回幹部研修会の特別講演として、環境保全活動について学ぶ場を企画し、北九州市環境局環境国際経済部温暖化対策課の樋口雅之氏より「北九州市の温暖化対策について」と題し、公害克服の経験と技術を活かして循環型の社会づくりを進めている北九州市の取り組みについて講演いただきました。
- 第10回安全担当者会議を企画し、2016年に日化協安全優秀賞を受賞した住友ベークライト株式会社宇都宮工場を訪問し、同工場における安全の取り組みについて紹介いただくとともに、安全意識の向上や危険の体感、安全に関するスキル習得のための安全道場を見学しました。
- 2018年10月から2019年1月にかけて実施した第2回安全アンケートについて、結果を解析し、提言内容をまとめました。
- 異業種企業の安全活動を学ぶ取り組みとして、JFEスチール株式会社東日本製鉄所との情報交換会を企画し、製鉄工場の見学及び労働組合の安全への取り組みについて意見交換を行いました。
- 「化学物質の安全管理対策・各省の取り組み」に参加する等、化学物質管理の状況や動向について知見を深めました。

環境安全委員会 メンバー



委員長	村松 厚 (昭電工ユニオン)	中央左
副委員長	川島 浩之 (DIC労組)	中央右
委員	山本 寿一 (デンカ労組)	左
委員	河村 和典 (宇都興産労組)	右

エネルギー・税制委員会

エネルギー・税制委員会では、中・長期的課題である「エネルギー政策」「税制改正」に対して継続的に取り組みます。

- 再生可能エネルギーに関して、水素を中心に情報収集に努めました。水素を取り巻く環境や、水素の利活用技術等の進捗を確認し、近い将来の水素社会実現に向けての課題や最新の水素関連技術についても知見を深めました。また、人と技術の未来研究会と合同会議を実施し、水素に関するエネルギー基本計画や基本戦略について情報を共有しました。
- 「九州大学エネルギーウィーク」に参加し、ワークショップやシンポジウム、講演を通じて、これからのエネルギーに関する知見を深めました。
- 化学産業を支えるエネルギー事情に関して、丸善石油化学(株)やJNC(株)の発電設備を見学し、化石燃料を効率的に使用技術について知見を深めました。また、コンビナート地区の抱えるエネルギー事情等に関する情報交換を行いました。
- 日化協や石化協と情報交換等を行い、化学産業のエネルギーや税制に関する見識を深めました。

エネルギー・税制委員会 メンバー



委員長	渡邊 雅美 (JNC労組)	中央左
副委員長	本多 正磨 (丸善石油化学労組)	右
委員	竹田 憲晃 (日本板硝子労組)	中央右
委員	瓜生 泰則 (AGC労組)	左

新しい働き方研究会 メンバー



委員長：峯岸 一（信越化学労組） 中央右
副委員長：竹内 輝紀（日本ゼオン労組） 中央左
委員：松岡 秀樹（JSR労組） 右
委員：白石 雅秀（化学総連事務局） 左

新しい働き方研究会

新しい働き方研究会では、少子高齢化の加速や労働者の価値観の変化、社会・政府の動向などを踏まえ、より働きやすい職場風土を醸成し、化学産業全体のさらなる発展の一助となることを目指して取り組みます。

- 第42回幹部研修会の特別講演として、これからの働き方を考える場を企画し、東京大学社会研究所教授の玄田有史氏より「これからの働く地図」と題し、働く環境が大きく変化の中で冷静かつ希望を持てるようなこれからの働き方について講演いただきました。
- 2018年10月から2019年1月にかけて実施した第1回働き方アンケートについて、結果を解析し、提言内容をまとめました。また、各単組での分析を支援するために、分析ツールおよび相関性一覧表を作成し、各単組に配布しました。
- ダイバーシティ経営と働き方改革の理解を深める場として第1回勉強会を企画し、中央大学大学院戦略経営研究科教授の佐藤博樹氏より「ダイバーシティ経営と働き方改革 ～管理職の部下マネジメントが鍵～」と題し、多様性が増す人材一人ひとりの満足度を高め、やりがい・働きがいを醸成するダイバーシティ経営の考え方や働き方改革の取り組みについて講演いただきました。

人と技術の未来研究会 メンバー



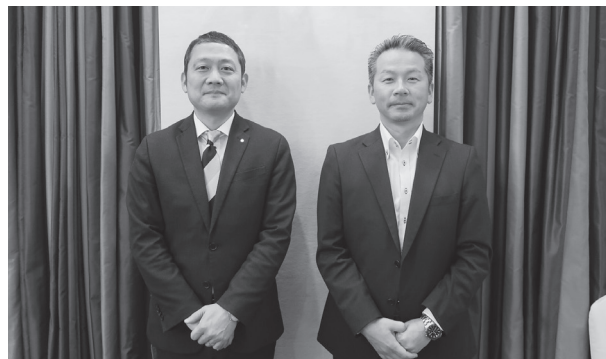
委員長：木村 和仁（ダイセル労組） 中央左
副委員長：吉田 淳二（カネカ労組） 中央右
委員：藤村 涉史（三洋化成工業労組） 右
委員：木村 崇志（日信化学労組） 左

人と技術の未来研究会

人と技術の未来研究会では、化学産業の持続的な発展、国内における雇用確保を産業レベルで追求するという目的に対して「人」と「技術」という切り口から「未来」志向で研究を行い、政策提言や情報の共有化を進めるべく活動に取り組みます。

- エネルギー・税制委員会と合同会議を実施し、水素に関するエネルギー基本計画や基本戦略について情報を共有しました。
- 研究開発に携わる組合員の知見とモチベーションの向上を目的にイノベーションワークショップを企画し、経済産業省産業技術環境局総務課の山下慶太郎氏より「パラダイムシフトを見据えたイノベーションメカニズムへ」と題して講演いただくとともに、ナノ医療イノベーションセンター副センター長の岩崎廣和氏より体内病院を基本コンセプトとする最先端ナノ医療の研究開発スキームについて説明いただいた上で同センターの施設見学を行いました。
- 昨年度勉強会を実施した人工光合成について、今年1年間の進捗をフォローするとともに、今後の展開について認識を共有しました。
- 10年、20年先を見据えた新しい技術として、ナノテクノロジーやAI、ビッグデータ等に関する情報収集を行い、情報共有や知見蓄積に努めました。

地方連絡会議 担当役員



担当役員：津田 耕二（三井化学労組） 右
担当役員：大熊 隆史（積水化学労組） 左

地方連絡会議

地方連絡会議（以下、地連）では、加盟単組支部間の情報交換および交流を基本とし、相互理解を深めながら効率的かつ効果的な運営を展開します。

- 各地連の皆さんと幹事会メンバーの意見交換の場を順次設けることで、産別としての役割と活動の理解促進や、地連の課題等の共有や連携強化に努めました。
- 地域が抱える課題について、先進的な取り組みを展開している地連活動の報告や事例紹介、ならびに地連間の情報交換を継続することで、組織として課題の把握と地域における産業政策活動に繋げました。
- 海岸をはじめとする清掃ボランティア活動や40周年記念行事を各地連において企画していただき、加盟単組支部や関連企業労組の皆さんに参画いただくことで、化学総連をより身近に感じてもらえるように努めました。

第43回幹部研修会

日 時 2020年1月16日(木)～17日(金)

場 所 タカクラホテル福岡

参加人数 105名

今回の研修会は、2つの特別講演と会長講演を実施しました。

1つ目の特別講演では、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授の前野隆司氏より「幸せな職場と働き方改革」と題して講演いただきました。

幸せには2種類があり、金や物、地位などの地位財による幸せは長続きしませんが、安心や健康、心などの非地位財による幸せは長続きします。長続きする幸せの中でも心による幸せは、「やってみよう因子：自己実現と成長の因子」「ありがたい因子：つながりと感謝の因子」「なんとかなる因子：前向きと楽観の因子」「ありのままに因子：独立と自分らしさの因子」の4つの因子を満たすことで得られると、講演の中では実際に各自で簡易的な測定も行いました。

幸せになることによって、パフォーマンスが

大きく上昇する(研究データによると、創造性は3倍になり、生産性は31%、売上は37%高くなる)だけではなく、健康や長寿にも繋がるとのことです。そのため今後は従業員の幸せを第一とした幸福経営が求められると強く述べておりました。働き方改革が叫ばれ、従来の働き方を大きく見直さなければならぬ昨今、我々労働組合は、従業員の幸せを今まで以上に意識する必要があるのかもしれません。

なお、幸福度は<https://well-being-circle.com>から診断することができます(個人利用は無料)。興味のある方はぜひご自身の幸福度を診断してみたいかがでしょうか。

幸福度診断 Well-Being Circle



「幸せな職場と働き方改革」について講演する、慶応義塾大学の前野先生



質問に回答される前野先生



質問する青木執行委員長
(信越化学労働組合 直江津支部)



質問する藪田中央書記長
(信越化学労働組合)



質問する笠原中央副委員長
(JSR労働組合)

2つ目の特別講演では、九州大学副学長で、水素エネルギー国際研究センター長の佐々木一成氏より「水素エネルギー社会実現に向けた素材産業への期待」と題して講演いただきました。

エネルギーのメガトレンドを考えると、石炭から石油、天然ガスと、脱炭素に向かっており、炭素を全く含まない水素は燃やしても水が発生するのみであるため、次世代のエネルギーとして期待されています。また水素は燃料電池を用いることで、燃やすことなく(熱エネルギーを介することなく)、化学エネルギーを電気エネルギーに直接変換することができるため、高効率で発電することもできま

す。講演の中では燃料電池のデモ実験も実際に行いました。太陽光パネルで作った電気によって水を電気分解して水素を製造し、その水素によって燃料電池が作動して発電する様子を、参加者の皆さんは熱心に見つめていました。

脱炭素社会のキーテクノロジーとして注目を浴びている水素ですが、さらなる低コスト化や、社会インフラの整備および普及戦略、長期的な技術開発など、様々な課題があります。これらの課題を乗り越え、水素エネルギー社会の実現するために、周辺技術の体系化や、産官学に加えて地域も連携するなど、様々な取り組みが精力的に進められています。



「水素エネルギー社会実現に向けた素材産業への期待」について講演する、九州大学の佐々木先生



燃料電池のデモ実験の様子



質問する坂口中央執行委員
(JNC労働組合)



質問する松隈支部長
(昭和電工ユニオン 川崎支部)

会長講演では、化学総連の寺前会長より「化学総連の取り組みと今後の課題について」と題し、2019年の活動の振り返りを行い、2020年春季労使交渉に向けた化学総連としての取り組みの考え方や、世界・日本の各諸情勢、企業業績についてご説明いただき、情報の共有化を図りました。



会長講演をする化学総連の寺前会長

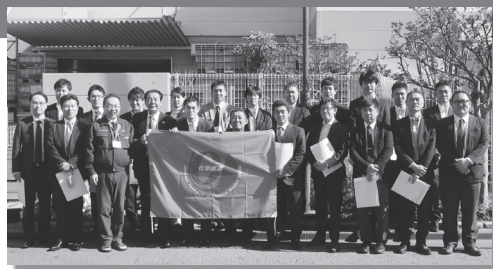
化学総連活動報告

【第93回調査担当者会議】

日 時 2019年11月5日(火)～6日(水)
場 所 株式会社日本フードエコロジーセンター
(施設見学)
ホテル町田ヴィラ(会議)
参加人数 22名

施設見学では、株式会社日本フードエコロジーセンターを訪問しました。この施設では捨てられてしまう食品を活用してリキッド発酵飼料を製造しており、「循環型社会」の構築への貢献が評価され、2018年12月に第2回ジャパンSDGsアワード本部長(総理大臣)賞を受賞しています。SDGsに対して先進的な取り組みを行っている異業種の施設を見学することで、見識を深めました。

会議では、調査担当者の業務内容の説明、定年延長に関する事例発表、秋季労使交渉に関する情報交換等を行い、質疑応答も含めて活発な議論が行われました。



(株)日本フードエコロジーセンターにて集合写真



事例発表の様子

【第42回支部役員研修会】

日 時 2019年11月8日(金)～9日(土)
場 所 理化学研究所 放射光科学研究センター
(施設見学)
姫路キャッスルグランヴィリオホテル
(会議)
参加人数 40名

第42回目の支部役員研修会を兵庫県で開催しました。施設見学では理化学研究所 放射光科学研究センターを訪問し、大型放射光施設Spring-8とX線自由電子レーザー施設SACLAを見学しました。これらは物質の原子・分子レベルでの形や機能を調べるための大規模な施設で、Spring-8の直径は500m、SACLAの全長は700mにも及びます。国内外から産学を問わず毎年約16,000人もの研究者が利用しており、我が国の研究をリードする最先端施設を見学することで、見識を深めました。

基調講演では寺前会長が、化学総連の基本姿勢や活動方針、各委員会・研究会の取り組み、海洋プラごみ清掃活動について講演し、参加者の皆さんに化学総連の諸活動に対する理解を深めていただきました。

分科会では8班に分かれて、各単組・各支部の活動内容について討議を行いました。討議後、ユニークで印象に残った点について各班より発表いただくことで、全体で情報を共有しました。



理化学研究所 放射光科学研究センターにて集合写真



分科会の様子

【対馬での海岸清掃ボランティア】

日 時 2019年11月15日(金)～16日(土)
場 所 対馬市浅茅湾、対馬市小茂田浜
参加人数 21名

2019年6月に幹事会メンバーで清掃した現場のその後を確認するとともに、今回も一般社団法人対馬CAPPAの協力のもと、清掃活動を実施しました。漁業で使用するブイやポリタンクの漂着は前回より少なかったものの、依然として発泡スチロールやペットボトルなどのごみが沢山漂着しており、初めて参加した参加者の方はその漂着ごみの多さに唖然としていました。今回は前回の反省を踏まえてトン袋を準備した上で、プラスチックごみを集中的に回収し、美化活動に貢献しました。



海洋ごみ問題について講演する、一般社団法人対馬CAPPAの上野代表



対馬の漂着ごみについて説明する、一般社団法人対馬CAPPAの末永理事



回収に集中する参加者



沢山のプラごみを回収しました

【2020年度 第1回書記長・事務局長会議】

日 時 2019年11月19日(火) **場 所** 化学総連 会議室 **参加人数** 21名

2020年4月より施行される同一労働同一賃金、および、同年6月より施行されるパワハラ防止対策に関して、勉強会ならびに情報交換を実施しました。勉強会では、アクタス社会保険労務士法人の矢田瑛氏に講演いただき、具体的な事例に関する質疑応答を通じてさらに理解を深めました。情報交換では、各単組における対応方針や対応状況について情報共有ならびに質疑応答を行い、各単組での取り組みの一助に繋げました。



講演するアクタスの矢田氏



情報交換の様子

【第43回支部役員研修会】

日 時 2019年11月22日(金)～23日(土)
場 所 かずさDNA研究所(施設見学)
 東京ベイプラザホテル(会議)
参加人数 41名

第43回目の支部役員研修会を千葉県で実施しました。
 施設見学ではかずさDNA研究所を訪問しました。
 この研究所はバイオテクノロジーの根幹であるDNA
 を研究の中核に据え、植物やヒトの遺伝子の研究において多くの世界的研究成果を上げていま
 す。我が国の研究をリードする最先端施設を見学することで、見識を深めました。

基調講演と分科会は、第42回支部役員研修会と同様に実施しました。

本研修会は、参加した方々から非常に良い交流の機会になったと毎年好評をいただいております。本研修会に限らず今後も交流の機会を提供していきますので、より多くの皆さんにご参
 加いただければ幸いです。



分科会の様子



かずさDNA研究所にて集合写真

【2020年度 第1回地連代表者会議】

日 時 2020年1月16日(木)
場 所 タカクラホテル福岡
参加人数 30名

各地連における会計監査の状況やボラン
 ティア活動の依頼、地連運営規定改定の共
 有化、ブロック交流会の開催について、内
 容の周知を図りました。



会議の様子